

断酒 みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
 事務局 呉市 押 込 5-12-25
 渡部 憲方
 郵便番号 737-0915
 電話 33-5571
 発行人 渡部 憲
 編集代表 石橋 剛
 印刷 松広印刷(株)



呉みどり断酒会『創立 50 周年記念大会』会場にて



「支えられて 50 年」

会長 渡部 憲

「先生、見て下さい。こんなに沢山の仲間が来てくれましたよ。」ステージ中央に掲げられた、故長尾澄雄先生の写真に向って語りかけた途端に、感極まり開会の言葉に詰まってしまいました。

2月5日、呉市文化ホールにて、来賓、朋友の皆様、総勢八百名近くの参加を得て『呉みどり断酒会創立50周年記念大会』を開催することが出来た。

45周年大会の講演を頂いた時、「先生、次の50周年でも宜しく頼みますよ!!」と言った時、先生は「それまで、生きちよりやあええがのオ」と、笑いながら答えて下さったのを思い出す。

昭和42年、聞くところでは全国で8番目の断酒会として発足。記念すべき今日を迎えることが出来たのも、半世紀に及ぶこれまでの、先達のご苦勞の賜物と、後に続く私達は深い敬意を表すると共に、一昨年お亡くなりになるまで、親身になって私達を育てて下さった初代院長先生のお陰と言っても過言でないことは承知しております。

この御恩に報いるべく、今、私達は保健所をはじめとする行政の支援を頂きながら、今大会でも職員、療養生百八十名余りの参加を頂いた、呉みどりヶ丘病院《長尾早江子院長先生》と両輪の如く、ご指導を頂きながら、酒害の啓発と、呉みどり会の発展のために会員、家族一同、一層決意を強くした記念大会だった。

呉みどり断酒会 創立五十周年記念大会

多くの皆様を支えられ、お陰様で当会も平成二十九年二月五日、大きな節目としての『創立五十周年記念大会』を開催することができた。今年は降雪も多く、山陰からの方達は大丈夫だろうかと会員・家族が心配している様子をみて、



五年前も同じような心配をしていたことを思い出していた。当日はあいにくの雨模様。そんな中、会員・家族の皆で早朝から開催準備。会場は、十三年前の中国断酒ブロック（呉）大会の時と同じ呉市

文化ホール。大会は、医療・行政機関からの来賓五十数名をはじめ、朋友断酒会、療養生、一般の方達の八百名近くの参加を頂き、多くの激励、祝福を受け、このような大会を準備から関わるのが初めてという方が殆どの現みどり断酒会会員・家族は感無量の様子だった。大会は十時から始まり、大きいと思われた会場も大盛況だった。体験発表は、福永里美さん、佐伯忠さんと鍋山秀一さんの奥様茂美さん。そして、渡部会長の奥様



治美さんの四名で、それぞれの立場からの思いを発表。顔なじみばかりの体験発表であったが、参加して下さった医療・行政の来賓の方達をはじめ、朋友断酒会の方達、百四十名余りの療養生の方達も真剣に聞き入って下さっていた。



しかし、参加者の誰もが寂しく

思われたのは、広島県で断酒会を立ち上げ、育てて下さった故長尾澄雄先生が舞台中央から遺影となつて我々を見守って下さっている会場に入った時であろう。大会が始まるまでの間、会員・家族の誰もが澄雄先生との思い出を振り返り、語り合っているようでした。

記念講演は、長尾澄雄先生の志を継がれた呉みどりヶ丘病院院長

長尾早江子先生に『アルコール依存症治療の歩みく心の回復をめざして』と題して、お話しをして頂いた。

終始、熱気に包まれた今大会も、杉原雄嗣鳥取県断酒会理事長の連鎖握手、甲田実三原断酒友の会長の方歳三唱の音頭を頂いて定刻どおり、盛会裏のうちに終了することができた。

五十年という歴史の重み、『呉みどり断酒会』という伝統を背負つての今大会開催に、世代交代が進み、若輩者集団の体にある現みどり断酒会に正直不安もあった。後日、渡部会長から『慰労の電話を多く頂いた』と聞き、会員・家族一同ホッとしている。



体
験
発
表



福永 里美
(アメシスト)

お世話になります。私は呉みどり断酒会アメシスト福永里美です。

呉みどり断酒会創立50周年、おめでとございます。このような記念すべき日に体験発表をさせて頂き、ありがとうございます。

お聞き苦しいところも多々あると思いますが、暫く聞いて下さい。

私は、平成四年に学校を卒業し、就職しました。飲酒といえ、職場の人達、友達との楽しい飲み会が始まりました。お酒は飲めるほうで、おだてられると調子に乗る飲み過ぎることもありました。

平成十一年に結婚し、一年後と三年後に男の子に生まれ、それから育児と家事に一生懸命の毎日でした。何をしても不器用な私は、色々と言われ悩むようになりまして。長男が幼稚園に行くようになってからは、私にも友達が出来てお互いの家に行き来したり、サー

クル活動にも参加するようになり、忙しいながらも子供達と楽しく過ごしていました。友達と楽しく付き合っ行って行くにつれ、子育てと家庭の事など色々話題になりました。そんな話の中で、自分の家庭との違いに《どうして私の家は…?》、私だけがどうして…?との疑問

に誰にも相談出来ず、持つて行き場のない遣り切れない気持ちが募り、悩みと不満が強くなつていきました。そんな遣り場のない気持ちを紛らわし、逃れるために段々お酒に手を出すようになりました。

不器用な私は、飲むと調子が良く、何もかも上手く出来るような気持ちになつていき、酒量も次第に増えていきました。今思えば、これが連続飲酒、隠れ酒の始まりだったと思います。その頃、家事と育児に追われていることを不安に思いながら、パートに出ることになりました。不安は的中しました。持つて行き場のない悩みと家事や育児にパートという忙しさで頭の中はパニック状態…!!。益々ストレスが溜まりました。長男が小学校に入學、次男が幼稚園に入園しました。子供達の事、家事、仕事と…、毎日の忙しさは何とか

頑張っていました。夫が私の悩みを聞いてくれないことにお酒を飲まずにはいられませんでした。お酒を止めて頑張ろうという気持ちの反面、段々と身体が思うように動かなくなり、またお酒に手を出してしまうの繰り返しでした。

私の一日は、早朝五時に起きて夫を送り出し、七時に長男を小学校へ見送り、その後次男を幼稚園の送迎バスに送り、それから私のパート行きでした。午後は、幼稚園の送迎バスの出迎え時間に合せてパートから戻り、その後次男と小学校へ長男を迎えに行き、買い物をするのでした。買い物途中に隠すように買って帰った紙パックの焼酎をペットボトルに移し替え、コーヒー牛乳で割って誤魔化して飲んでいました。益々酒量が増え、生活のリズムは崩れて行くばかりでした。夫が帰宅した時に酔って寝ていて《マズイ…!!》

と思つたことが何度もありました。飲み過ぎた罪悪感もよそに飲みながら家事をする日々が続くようになりまして。私の様子が気掛かりで、両親が呉から度々来てくれていました。両親はまだ私がアルコール依存症とは思っていないかつ

たようでした。

私は、どうしようもなくなつて、夫に「お酒が止められなくなつた」と話しましたが、その時には既に私を実家に帰すことを決めていたようでした。その夏の平成十九年八月に子供達を置いて実家に帰ることになり、その後しばらくして離婚となりました。この時から、二人の子供達は元の夫の実家で暮らしていますが、連絡することも会うことも出来ていません。《二人の子供達はどんな気持ちでいるだろうか…!!》と何時も気になり、会いたい気持ちが募るばかりでした。悔しさと遣り切れなさを紛らわすため、またお酒を口にするようになりまして。子供達はぎつと想像以上に辛い思いをしているに

ちがいありません。このまま何もせずに悩んでも仕方無いと思ひ、仕事に行くことにしました。

しかし、我が子と同じ位の子供を見たり、周りの人から子供の話を聞くと益々遣り切れなく、寂しく、仕事からの帰宅途中にも飲むようになりまして。母親から玄関に入るなり「今日も飲んでるね」「また、飲んでるじゃない…!!」「飲むんなら、家で飲みなさい…」

等々、度々言われるようになりま
した。また、私の気持ちまきが紛れる
ようにと、両親や妹が休日には広
島や方々に連れて行つてくれまし
た。ここでも、目を盗んではトイ
レでワンカップの焼酎を飲んでい
ました。やはり、両親や妹には直
ぐに気付かれます。それでも「飲
んでないよ：!!」「飲むわけない
じゃん：!!」などと言っていました。
足はフラツキ、家に帰ると直ぐに
大の字になってグーグーと寝てし
まい、お酒の臭いがプンプンです。
いくら「飲んでない：!!」と言
張つても、皆が気付かないはずは
ありません。でも、その頃は「大
丈夫。誤魔化せる：!!」と思つて
いました。

お酒を止めなければ：：と何時も
思っていました。特に子供達のこ
とを思う時、こんなことでは子供
達を引き取ることは出来ないので
《止めなければ：!!、どうしても
止めなければ：!!》と思つていま
した。両親から同様のことを再
三言われていました。でも、止め
られませんでした。そのうち、勤
め先でもお酒で迷惑を掛けてしま
い、仕事を辞めざるを得なくなり
ました。その後、次の仕事に就い

てから数カ月間は、仕事を覚える
のに一生懸命だったのでお酒を飲
まずに済んでいたのですが、慣れ
てくると子供達のことに加え、職
場での人間関係で悩むようになり、
再飲酒となりました。人間関係と
いつても、今考えれば大したこと
ではありません。益々、飲み方が
エスカレートしていききました。も
う、お酒が無くてはどうにもなら
ない身体になつてしまつていたの
です。

念願の仕事に就けたし、お酒を
飲んでも見つからなければ大丈夫
と思つていました。出勤途中でも
焼酎のワンカップを買つて、飲ん
で行くほど酷くなつていました。
マスクをして仕事をし、ガムを沢



山嘯んで誤魔化していました。仕
事さえチャンとしていれば、誰に
も文句は言われなかつたと思つていま
した。帰宅途中も電車の待ち時間
に飲み、乗り過ぎたり、電車か
ら降りると同時にベンチにぶつ倒
れて眠つたり、道路で潰れている
と通り掛かりの人が警察に通報し、
お巡りさんに家まで連れて帰つて
もらったこともありましたが。これ
は、後で聞いた話ですが、私の帰
宅時間に母は毎日呉駅まで、時
は仕事場まで、何時間も待たされ
ながらも私を迎えに行き、時には
こつそりと私の後を付けて帰つて
いたそうです。そんな母の心配も
知らず、コンビニにお酒を買いに
寄つて飲んでいました。それでも、
両親には「飲んでない：!!」と言
い張つて両親の言う病院行きを拒
んでいました。そんな生活を続け
ていた或る日、仕事場の人達から
様子がおかしいと気付かれ、お酒
が入っていることが分かり、解雇
されました。

解雇されて家に帰る途中、何時
ものようにお酒を飲んで電車から
降りたところを、両親と妹に抱え
られるように呉みどりヶ丘病院に
連れて行かれ、入院となりました。

平成二十一年八月のことです。入
院は私の意志ではなく、無理やり
でしたから《私ばかり三人で虐め
る：》と、両親と妹を恨みました。
毎日のように見舞いに来てくれる
両親と休みに必ず来てくれる妹に
「何故、こんな病院に入院させた
のか：？、早く退院させてよ：!!」
と、何時も言つてました。そんな
惨めで辛い療養生活も九ヶ月で退
院することが出来ました。その後
は、デイケアへの通所と入院中か
ら両親が呉みどりヶ丘の断酒例会に
出席してくれていたもので、私も呉
みどり断酒会に繋がりました。

初めは、断酒会でお酒が止めら
れるとは全く思いませんでした。
上手く飲めば、少し位なら良いか
くらいの軽い気持ちでいました。
例会出席も、取りあえず初めだけ
出れば良いくらいにしか思えませ
んでした。色々な研修会、断酒学
校、大会等に連れて行つて頂き、
様々な方達の体験談を聞かせても
らつていたうちに、私はアルコール
依存症であり、一滴のお酒も飲
んではいけない身体なんだ。ごく
ありふれた生活を営んで行くため
には例会出席をして断酒し続けな
ければいけないことが改めて分か

りました。何事も自分一人ですぐにかしようにと思い、お酒の力を借りて遣つてきたことが、結局沢山の周りの人達に迷惑を掛けて来たことも分かりました。

みどり会の会長さんをはじめ、会員・家族の皆さん、そして多くの朋友断酒会の方々に声を掛けて頂き、励まされたりして、今日という日まで断酒継続が出来ております。お陰さまで、現在は呉みどりヶ丘病院で仕事もさせて頂いています。

正直なところ、断酒が出来ていても子供達のことや、今後の自身自身の生活のことを思い、考え込むこともありですが、今は先輩や仲間のお話しを聞かせて頂いたり、悩みを聞いて頂いたりしながらの断酒継続六年。私なりの生活リズムでごく普通の生活が出来ていることを有り難く思っております。これからも、皆さんに支えて頂きながら《例会出席》あつての《一日断酒》で愚直に頑張つて参りますので、これからも御指導の程、よろしくお願ひします。取り留めのない話をいたしました。ご清聴ありがとうございます。ごさいました。



鍋山 茂美
(家族)

皆さん、こんにちは。呉みどり断酒会、家族の鍋山茂美です。呉みどり断酒会創立五十周年記念大会の場で発表させて頂くことに感謝申し上げます。

主人は、もともとお酒が好きで、関係が上手くいってなかつたことが理由なのかは分かりませんが、美味しそうに飲んでいたお酒が少しずつ暗いお酒になり、沢山飲むようになっていきました。それしか楽しみがないので、怖い顔して飲む主人を私は止めませんでした。主人は、息子に小さいころから見下し、馬鹿にして愛情を感じたことはありませんでした。息子が小学生の時、担任の先生に制服のシャツを切られたことがありました。連絡帳に切られたシャツが貼られてあり「これで、シャツがズボンから、はみ出さないですね…」と書いてありました。私は仕事から帰つてそれを見て、大変ショックを受けましたが、そのことを先



に知つていた主人は「揉ますな…」と言つてお酒を飲んでいました。子供に辛いことがあつても無関心で相談も出来ず、私は息子のことを思うとどうしたら良いのか悩みました。シャツを切られたことも辛かつたのですが、そのことを一緒に考えてくれず、お酒ばかり飲んでいる主人を見て情けなく感じました。それから息子はクラスの皆から口を利いてもらえない苛めが始まりました。クラスの友達に挨拶をしても無視されて孤立する状態が一年間続きました。その時も主人は無関心で心配することもありませんでした。

中学生になつた息子は、主人の冷たい言葉や見下した態度に何度か手を挙げて殴ろうとしましたが、悔しい気持ちを我慢して主人を殴らず、壁に大きな穴を開けていました。この頃の主人はお酒の量も多くなつて、態度は益々自分本位になつていきました。息子の気持ちを思うと情けなく、私は何時しか主人と別れたいと思うようになりました。

或る日、主人はお酒から鬱状態になり、ご飯が食べられなくなつて、一日中布団を被つたまま起き上がる事が出来なくなりました。暗い部屋で「自分は、もう駄目だ」とか「死にたい…」と言つて泣いていました。抜け殻のような主人が何時元氣になつて仕事に行けるのか、先の見えない状態に不安になりました。息子は、就職試験の時期でした。家の中は試験にのぞめる状態ではなく、私は主人の世話で手一杯になり、息子に目を向けてあげることが出来ませんでした。息子は何度も試験に落ち、気持ちが大不安になつていきました。娘と一緒にいなかったため、毎日私を電話やメールで元氣付けてくれました。主人の病気がなかなか良くならなくて、私の気持ちが落ち込んでいた時に「止まない雨は

ない」と励ましてくれ、何時かは元気になると思いました。

そんな苦しい状態から半年が過ぎたころから主人の身体の状態も徐々に良くなり、お酒を飲み始めると飲酒運転を平気でするようになりました。結婚が決まっていた娘は、父親が飲酒運転をすることにとっても怯えていて、泣きながら「犯罪者の娘にせんといて」と言うと言った、主人はお酒を飲みながら薄ら笑いを浮かべていました。私たちは、娘の一番嬉しい時に一緒に喜んであげることが出来ませんでした。飲酒運転を平気でする主人がおかしいと思ひ、掛かり付けの精神科の先生に相談すると、「アルコール依存症です」と診断され、お酒を飲んではいけないことを教えて頂きました。

娘は、父親がアルコール依存症だということと結婚を諦めることも考え、相手にそのことを話したそうです。相手の方は「そんなことは、関係ない」と言ってくれたのですが、娘は「父親がアルコール依存症で、その娘が結婚することが許せない」と言いました。普通の家庭で、普通の父親であつて欲しかったと思います。主人は



中国ブロック断酒セミナー会場にて

お酒を飲んではいけないのに隠れ酒をしていました。或る日、主人が屋根裏に隠していたお酒を息子が見つけ「こんなお父さんとはもう別れよう」と言いました。息子は、小さい時から父親に可愛がられることもなく、飲酒運転をしたり、お酒を隠したりする姿を見て、どんな気持ちだったのかと思ひました。私は、このままの父親の姿ではいけないと思ひましたが、主人が本当にお酒を止めてくれるか不安な毎日をお過ごししていました。それから暫くして、主人はお酒を飲んで道端で倒れ、呉みどりヶ丘病院に入院しました。飲酒運転はする、子供のことは無関心で平気で嘘をつき、自分のことしか

考えない主人に対して私は裏切られた気持ちになり、胸に大きな穴が開いて、風が通り抜けるような感じがしました。どんなに頑張つても、この人は無理かもしれないと思ひました。入院して初めて主人は、自分がアルコール依存症であることを認め、お酒を止めるため、退院してから断酒会に入会しました。

好きにお酒を飲んで子供達に辛い思いをさせた主人が、お酒を止めるために断酒会に夫婦で行くことは、正しいことかも知れません。でも、息子の立場からすれば、何時も私が父親に振り回されているような納得のいかないことと感ひたと思ひます。断酒会に通い始めて何年かして、長い間話の無かつた主人と息子が少しずつ話をするようになり、娘も「とても嫌だつた父さんが、そんなに嫌に思わなくなつた。どうしてかと考えてみたら、断酒会に真面目に行つてゐるからだと思ひます」と言つてくれました。私は、断酒会に通つて良かったと思ひました。

断酒会に行くようになり、初めて主人は人の話を聞いて自分の過去を振り返るようになりました。

例会では今迄、私や子供達にしてきたこと、お酒を飲んで自分がしたことを話してくれるようになり、家でも何時も自分中心だった主人が、子供達や私のことも考えてくれるようになり、少しずつ変わつてくれているのが分つてきました。

二年前、主人は脳内出血で手術をしました。私は初めて主人を助けあげたいという気持ちになりました。それは、主人が頑張つてお酒を止めていたからだと思います。病院の先生方や断酒会の方達、職場の方達のご尽力のおかげで、今は元氣になつて普通の生活が出来るようになりました。私や子供達は、主人のお酒に振り回されて辛い思いをしました。出来れば、あの頃の嫌だつた記憶が子供達から少しでも消えて欲しいと思ひます。

息子に愛情を感じられなかつた主人が、今は息子と仕事や好きな野球の話をしてゐることは嬉しく、結婚をする時に辛い思いをさせた娘も今は可愛い孫の顔を見せてくれています。私は、あのまま諦めなくて良かったと思つております。

この生活を続けるために、例会を大切に頑張つて参ります。これからも、よろしくお願ひ致します。



佐伯 忠
(本人)

皆さん、おはようございます。呉みどり断酒会の佐伯忠です。本日は、呉みどり断酒会創立50周年記念大会に体験発表をさせて頂き、ありがとうございます。

私は、昭和29年に地元の呉で生まれました。家族は父、母、姉の4人でした。お酒を初めて口にしたのは、高校の卒業式が終わった日の午後、友達の家でビールを飲み、タバコを吸いました。就職も決まり、学生から社会人へ：大人になった気分になり、タバコをふかしながら、ビールを飲みました。

就職先は、呉の海上自衛隊でした。その頃の自衛隊は男社会で、仕事の打ちあげ、忘年会、暑氣払い等々、事あるごとに飲む機会がありました。それには何時も参加してありました。そんななか、幾ら飲んでも酔わない、崩れない先輩にあこがれを持ち、今では馬鹿なことをしたと思うけど、飲酒訓練に励んで20代後半には、佐伯はなんぼ飲んで酔わんし、崩れんろう



：と言う言葉が職場の中で聞こえて来るのが嬉しかったです。40歳を超える頃、職場での立場も中間管理者として重要な仕事を任せられました。自分の処理能力を超えており対処出来なくなり、そのストレスをお酒でごまかし、変な飲み方へと変わっていききました。平成十一年に焼山に家を建てて市内から、父、母と3人で今の家に引っ越ししました。この頃までは、飲んでいただけと異常な飲み方ではなく、古い家の売却、新しい家の交渉等、仕事をしながらでも無理にこなせました。ダア、ダアに崩れてお酒を飲むようになったのは、父親と母親が亡くなって一人になってからでした。新しい家

に引っ越して3年目、平成十三年に母親が亡くなり、父親と2人の生活が始まりました。この頃から、多量のお酒を飲むようになり、仕事から帰っては父親に職場での愚痴ばかりこぼして飲んでいました。父は嫌な顔ひとつせず、私の愚痴話を聞いてくれ、助言もしてくれ、厳格な父でした。「人様に迷惑を掛けるな」と、何時も言ってくれてました。

そんな父が平成十六年の正月、身体の調子が悪くなり、呉共済病院へ一ヶ月入院となりました。退院後、家に連れ帰ってみると、父のおかしな言動、顔の表情が変わっており、私はその変わりようにびっくりしました。歩行困難にもなっており、認知症になってました。昼夜の逆転、私が仕事から家に帰ると父は寝ており、食事の支度をしたあと父を起こしてからの食事。父を寝かしつけて大酒を飲んで父の傍で寝ていると、夜中にトイレに連れて行けとの催促。足が悪いのに外に出ようとする。私は、夜中に起こされて眠れなくなり、お酒を飲む。そんなことが毎日のように続きました。しまいには、父が私を起こして「明日、徴兵検査があるけん服を出せ」と言う始末。

「平成の世の中に徴兵検査なんかあるかい」と、口喧嘩。また、眠れなくなり、お酒を飲む。当然、翌朝は酒が残る。職場の介護経験がある人に聞くと、夜は動けないようにベットに拘束しろ。部屋に鍵を掛けるとか、ヘルパーを雇えとか聞き、色々やってみました。認知症になって3ヶ月の葛藤：！！。終いには肺炎になって、呉医師会病院に入院。寝たきりになりました。平成十六年六月に亡くなりました。

私は、父にもっと優しくしてやれば、仕事を辞めて看病してやれば良かったんじゃないか：と、悔やみばかりが残ってしまい、もうどうでもよくなり、毎朝飲んで飲酒運転をして出勤。仕事が終ると家に帰らず、酒屋に寄って、ビールやワンカップを買って近くの公園の駐車場に車を止めて飲み、飲酒運転で家に帰り、しこたま飲むの毎日でした。人こそはねなかつたが、壁にぶついたり、電柱にぶついたり、自損事故は何度もやりました。車体はボロボコになりました。職場に於いても、上司や同僚は飲酒運転をして出勤するのを知っており、上司から「飲んで出勤す

るのは止めてくれ…」と何度も注意をされましたが無視。そんな状態なので、職場の誰もが私に口をきかなくなりました。仕事はおもしろくないし、イライラする。家に帰ってしこたま飲むと、腹が立ってきて異常な行動をするようになりました。夜中に職場の上司や同僚、友達に電話をして、わけの分らんことを言っただけだったりしてました。或る日のこと、家で飲みたらないので、コンビニでワンカップを3本買って家に帰る途中、急に腰砕けになり、道路で寝ていたら警察官が2人来て、家まで連れて帰ってくれました。その時、名前を聞いたら答えてくれないのに「わしを馬鹿にしちよるんか!!」と腹が立ってきて、家から何べんも呉警察署に電話をしました。もししたら、平の刑事が対応したので「お前みたいな雑魚じゃ駄目じゃ、署長を出せ」と言っただけきよつたら、逆探知され「お前、自衛隊に勤めちよる佐伯じゃろうが!!」と言われて、「名前を言わんのに何で分るんかいのオ…」と思いい、電話をするのをやめました。

も警察へ電話したんじやげなのオ。昨夜、警察から職場へ電話があつて「110番の電話がパンクするけん、電話を止めさせてくれエー」と、電話があつたんじやと。昨夜の当直員から連絡があつたが、何しかしたんない…」と言われ、「わしやあ、警察官の名前を教えなくてくれえと聞いただけじゃ」と言うのと「馬鹿たれ、警察官には守秘義務があるんじやし、お前みたいな酔っ払いの相手せんわい」と怒られました。そのことが職場に知れ渡り《警察にくだを巻いた、酒癖の悪い奴》と思われるようになり、益々、孤立していききました。9月の末の或る日、何時もの飲酒運転で出勤途中、信号待ちをしていたとき信号が青になったので発進したらハンドル操作を誤り、ブレーキとアクセルを踏み間違えてガードレールに衝突し、車は大破:!!。チェンジをバックに入ると、車は動いたので職場に出勤しました。車の状態を見た上司から「呉みどりヶ丘病院に診察に行け:!!」と言われ、私もフロントがポコポコになっている車の状態を見て、やったことに驚き、しぶしぶ呉みどりヶ丘病院に受診に行き、

アルコール依存症と診断されて入院しました。3ヶ月後の平成十七年一月退院。呉みどり断酒会にも入会し、仕事は4月まで休職となり、自宅待機。自宅での生活は、はじめの1ヶ月は職場の上司や同僚が見に来るんじやないかと警戒して規則正しい生活をしてました。食後の散歩は、欠かさずやりました。「もう、絶対に飲まない」という心が崩れたのは、3月に入ってからでした。体力も回復し、家には誰も来ないし、ついワンカップを一本飲んでみました。その日は、それだけで止まりました。翌日、その次の日と飲まずに過ごせたので「わしは、治った:!!」と勘違いしました。3日にワンカップ1本の飲酒が、2日に1本、毎日へと変わって行きました。4月に職場復帰したものの、飲酒量も増えていき、5月の連休には、朝からの連続飲酒。連休後の出勤日の朝、立ち上がれないほど酔って寝ていると、職場の同僚が訪ねて来てくれて、2度目の呉みどりヶ丘病院への入院となりました。

すると、呉みどり断酒会に再入会しました。入会後は、義務例会、県内外の研修会をはじめ、大会や断酒学校等々に積極的に参加したおかげで断酒が続き、職場も2年前に定年退職出来ました。これも、職場の上司、同僚が私の断酒活動に理解を示して下さい、協力して下さいだったお陰です。海上自衛隊には、心から感謝しております。これからも、一人では断酒出来ないとの言葉を忘れず、断酒会の和の中で《例会出席あつての一日断酒》をモットーに生活して行きたいと思つていきます。これからも、よろしくお願い致します。ご清聴、有り難うございました。



渡部 治美 (家族)

呉みどり断酒会創立50周年おめでとうございます。この伝統あるみどり会に入会したのは36歳の時でした。主人は酒を飲んで暴れるとか、幻覚が出たりすることはありませんでしたが、海上自衛隊で

警備の仕事《門番》の勤務中に市内へ飲みに出て、停職一週間の懲戒処分を受けました。朝酒をするほどの酒飲みが酒を止めるには、どうすれば良いかと悩んだ末、恥をさらすようでしたが勤務先の先生に相談したところ、先生の奥様と当時みどり会会長の奥さんが知り合いで奇跡とも言える断酒会との出会いを頂き、会を信じ通い続けて二人共今年は70歳になります。

『出会いが、人を変える』とか、『断酒継続ができるのは、運の良い人。できないのは、運の悪い人』など、共感できるお話を沢山聞かせてもらっていますが、今一番大事と思う言葉があります。それは、本日も来賓でご出席頂いておられます、直江文子様が一昨年の松村断酒学校で購入した本の最後にサインして下さいました『いつでも初心、いつまでも初心』です。今回は断酒会に初めて行った頃をもう一度振り返る時期を頂いたように思っております。

私達は、戦後のベビーブームの世代です。何処でも人数が多く、生存競争の激しい時代を過ごしました。農家に生まれ朝から晩まで農作業に追われる母を見て、私は

資格を取り楽な生活ができたらと考え、呉の看護学校へ入りました。主人は東京オリンピックで日の丸の旗を持って行進する自衛官の制服に憧れ入隊したと言います。運命の出会いと言いましようか、成人式会場で落着きのない隊員さんを見てびつくり、主人でした。とても懐かしく話す機会も多くなり『自衛隊の学校では優等生だった』とか『仕事も良くできる』と話してくれ、卒業後田舎の病院で働く私に惚れ惚れする達筆の手紙や葉書きをよくくれました。公務員でもあるし、出世コースを行けば将来は安定した生活が送れるような気がして結婚を考え、再び呉へ戻り、呉国立病院へ勤めることを決



めました。

明日から新しい職場と、緊張の年度末3月31日の夜、事件が起きました。主人は看護婦宿舎へ忍び込みとうとしたところを巡回中の警官に逮捕されましたが、酒を飲んでいて良く覚えてないことと、痴漢がよく出る場所だったので何も公表されず一件落着。しかし、私にとつてはあまりにも恥かしくショックな事件で断酒会に入会後十数年経ち、やつと体験談として話せるようになりました。その頃には主人は既にアルコール依存症になっていたと思われまます。

その後、酒での問題もなく年の暮れに結婚し、市営住宅へ入居。子供も二人で専業主婦として暮らしてました。自衛隊の家族の多い中で主人は昇任試験も受からず、貯金など一円もなく、それどころか借金が段々増えるのが気になり、とても嫌でした。断酒会で『また、飲んだるじゃろ』『いや、飲んだらへん』と、こんな体験談をよくききますが、私は酒のことはあまり気にならず、いつも『また、借りとるんじゃない？』と借金ばかりを問い詰めては、嘘をつきごまかす主人が信用できず印鑑を

作ったり、押み屋さんへ行きましたが、そんなことで止めるわけありません。今度はサラ金業者を回り『渡部憲には、金を貸さないで下さい！』と頼んで回りましたが、それも無駄でした。しかし、一人だけ主人が書いた借借書を見せて『大きい負債を抱え、立ち直った人』の話をして下さいました。これだと思ひ、全く預金も無いのに家を建てる計画をすると、18年間自衛隊に勤めた実績と知人が保証人になって下さり、千七百万円という大金の融資を受け、現在の家を建てることができました。

3年と5年の子供は転校しても、元気に新しい友達と仲良く学校へ行ってくれホッとしましたが、主人は私の留守中にパチンコに狂い、負けるとサラ金で金を借りるのが増々ひどくなり、素面では居れない状況になっていました。当然、仕事でも関係なく酒を求め市内へ飲みに出たのが自衛隊にバレて最初に申しましたように断酒会に繋がることになりました。家を建て、3ヶ月過ぎた頃です。家へ自衛隊の方が来られ、主人の母にも同席してもらい話し合いがあり『奥さんは、どう思われますか？』

と聞かれ、何を言えば良いかわからず『普通のお父さんになつて欲しいです』と言ったのを覚えています。結局、停職一週間の処分を受け自衛隊に残ることができました。今後どうするか悩み、何時も話させて頂く勤務先の先生の奥様の紹介で呉みどり断酒会を訪ねました。

皆さんとても立派な方に見え、最初にお話して下さった須田さんかと思いますが『アル中には薬はないけど、会に通ったら治るから』と言われ、大丈夫かもしれないと思ひ、主人も後日参加し入会してくれました。家には酒類は置かないとか色々教えてもらいましたが、何より嬉しかったのは、皆さんが優しく声をかけて下さることでした。子供には、出来合いの食事を用意して運転免許の無い私は車の免許を取り、何も考えず今やつた方が良いと思うことをやりました。毎日飲んでいた酒を止めるとどのようになるか体験しました。『入院した辛さがわからないでしょう』と言われることもあります。入院なしで酒を切ることはとても大変でした。イライラして不機嫌、夜は寝ない、落ち着きがなく何を

しても不満の様子で笑うことなどありません。話し掛けるのも恐ろしい感じが長く続きました。

多分、本人が一番きつかったと思います。例会に参加し友達になつて下さる方が増え、特に家の近くに少し先輩の会員さん宅へは例会の無い日も行かせてもらい助かりました。例会でアルコール依存症について少しづつ知ることができています。当時の会長さんが『金をせびりに伝染病院の塀を乗り越え中に入った』と話された時に国立呉病院の奥に伝染病院があったのを知っていましたので、まさかそんな所までと思ったのと同時にアル中はそこまでするんだと主人の行動が少し理解できました。



酒を止める日が続き、何年経つても主人のギャンブルと借金が続いたことは嫌で嫌で本当のことが話せない苦しさも体験しましたが、研修会で依存症について学ぶ機会が増え、アルコール依存症以外にも薬物、ギャンブル、買い物、人へ依存することを聞き、少しづつ病気として理解できるようになりました。

主人が体験談で母に迷惑を掛けたと何時も話しますが、お母さんは一緒に生活してないのに私の苦労に比べたら大したことないと思つていました。しかし、あの時主人の母に来てもらい、自衛隊の方との面談に同席してもらつたからこそ主人の断酒は続いていると思ひます。母にとつては寝たぎりの夫の介護、長男の急死、次男憲の問題、娘の病死と次々不幸が続いた大変な人生でしたので主人はちやんとしなければと頑張つてくれると私は思っています。私の両親には主人の悪いことは何も言いませんでした。それどころか、定年を迎えた時には結納金の何倍もの小遣いを父にやつてくれたり、膀胱癌で亡くなった兄を見舞いに島根県の益田まで何度も連れて行

つてくれたりしたので、娘の幸せな暮しを信じて亡くなったと思います。私の父は『子供が難儀する時は、親がみてやらんといけん』が口癖でしたので、何も言わなくて本当に良かったと思います。

長尾早江子先生には『回復のモデル』について教えて頂きました。回復のモデルは見付けることができませんでしたので、自分達も何時かモデルになれたらと思つています。前院長長尾澄雄先生は、今日もずっと見守つて下さっています。カルテの無い主人の治療を下さいました。お元気な時『50年を目指して頑張りなさい』と言つて下さいました。先生は最後の土曜例会に車椅子で出席され、挨拶後私達一人一人の顔をじつと見詰めたがらお帰りになつたお姿が忘れられません。『元気で頑張りなさい...!』と言つて下さつたように感じました。皆様からのご恩に感謝し『いつでも初心、いつまでも初心...』を大切に二人一緒に頑張りますので、どうぞ宜しく願ひ致します。ありがとうございます。



五十周年記念大会閑話

今回、創立五十周年記念大会を開催するにあたり、約一年前から実行委員会を立ち上げ、準備を進め始めましたが、五年前に経験豊富な先輩役員の方達からの思いを引き継いだ当時の役員も三人しか残っており、五十周年記念大会という大切な節目の催しを準備の段階から関わるのが初めてという役員や会員・家族の方が殆んどで



実行委員会の会議風景

正直なところ、心細い出発でした。しかし、実行委員会を重ねて行くうちに各役員や会員・家族の方達に大会を成功させたい気持ちが強まり、朋友断酒会の大会や研修会に参加して、主催者側にたった感



大会前夜、会場設営の前に



家族会からのおもてなし

想や意見もではじめて『みどり会らしい、心の籠ったおもてなしをしよう』を合言葉に準備を進めて行くうちに会員・家族間に親交を和が広がり、より深い絆で繋がった呉みどり会の大会になりました。

「希望のウィンドブレーカー完成」

呉みどり断酒会創立五十周年記念大会を開催するにあたり、ウィンドブレーカーを作成。今後は、各地域で開催される大会・研修会に参加する時に、着用する予定。



断酒継続表彰者

(創立五十周年記念)

今年、左記の十三名の方が断酒継続表彰を受けられました。共に喜びを分かち合いたいと思います。おめでとうございます。

- ☆一年表彰 和田 美雪
- ☆二年表彰 見野 樹
- ☆三年表彰 澤原 泰幸
- ☆四年表彰 胤森 孝穂
- ☆五年表彰 小川 哲一
- ☆五年表彰 吉川 幸江

- ☆五年表彰 山内 鉄平
- ☆七年表彰 島本 辰馬
- ☆十年表彰 鍋山 秀一
- ☆十五年表彰 加藤 勝美
- ☆二十年表彰 遠藤 勇人
- ☆三十年表彰 中田 頼子
- ☆四十五年表彰 須田 一郎

創立五十周年記念大会

寄付者御芳名

【呉みどりヶ丘病院】

- 院長 尾 早江子 様
- 精神科医長 小 河 弘 幸 様
- 医師 師 長 尾 正 久 様
- 職員一同 (四一名)
- もの里病院 伏 見 みゆき 様

【朋友断酒会】

- (N) 岡山県断酒新生会 様
- (N) 岡山県津山断酒新生会 様
- (N) 鳥取県断酒会 様
- (N) 広島断酒ふたば会 様
- 備後断酒友の会 様
- 三原断酒友の会 様
- 尾道断酒うず潮会 様
- (N) 福山みずほ断酒会 様
- 庄原断酒会 様
- 府中断酒会 様
- (N) 賀茂台断酒会 様
- (N) 福山市断酒会 様
- 【朋友会員】

- 香川 細川 一雄様
- 岡山 有本 敬様
- 広島 池下 英行様
- 甲田 実修様
- 長岡 克修様
- 中田 英明様
- 丸本 勝志様
- 安原 誠一様
- 吉村 廣志様
- 米村 廣志様
- 呉みどり会家族会様
- 須田 一郎様

寄付者御芳名

(十二月)

- 呉みどりヶ丘病院
- 院長 長尾早江子様 六〇、〇〇〇円
- 呉 柴崎 忠様 五、〇〇〇円

新入会員紹介

- 呉市阿賀北一―一四―四五 末綱 孝司
- 呉市阿賀北一―一五―四五 山本 初美
- 呉市阿賀北一―一四―四五 吉川 大介
- 呉市阿賀北一―一四―四五 村上 哲士
- 呉市和庄登町二―一七

平岡ビル二〇六号 盛 茂生
 ● 呉市広横路三―十一―一九 正法地 修

● 呉市宮ヶ迫一―三四―二〇 山口 恭範

● 安芸郡熊野町新宮一―一九―七 石田 博文

断酒継続おめでとう

☆二年 高畑 俊英 12月13日



行事予定

○ 4月2日

第52回中国断酒ブロック

(山口)大会

○ 4月23日

第52回四国断酒ブロック

(愛媛)大会

(ひめぎんホール)

○ 5月13〜15日

第73回松村断酒学校

(本山町プラチナセンター)

○ 5月27日〜28日

第23回山口県断酒セミナー

(山口県セミナーパーク)

○ 6月18日

第47回広島県断酒

(庄原)大会

○ 6月24日〜25日

全断連評議員会&

全断連第7回定時社員総会

(晴海グランドホテル)

○ 7月9日

備後断酒友の会

創立50周年記念例会

(福山参画センター・5F)

○ 7月15〜16日

第16回鳥取県断酒会

一泊研修会

(鳥取県ホテル 大山)

○ 9月1日〜3日

第47回山陰断酒学校

(松江市玉湯公民館)

平成二十九年 役員

呉みどり断酒会平成二十九年 役員は左記のとおり決まりました。

役員一同、新たな気持ちで頑張ります。宜しくお願ひ致します。

- 会長 渡部 憲
- 副会長兼事務局長 曾根 敏浩
- 副会長兼進行・編集 石橋 剛
- 常任理事(行事) 佐伯 忠
- 理事(事務局) 廣野 幸則
- 理事(会計) 鍋山 秀一

平成 28 年 12 月 ~ 平成 29 年 2 月 度 例 会 動 員 数

行事名	回	正会員	家族会	賛助会員	聴会会員	院内会	7-7-7	一般	合計
土曜例会	12	400	177	62	107	829	274		1,849
家族の集い	3	357	164		4	2	7	534	19
ブロック例会	3	31	13					44	46
新会員を囲んで	3	32	14					3	3
院内懇談会	3	3						69	33
特別院内断酒例会	2	53	16					63	36
第53回全国(香川)大会	1	21	12					183	4
呉みどり断酒会第50回断酒なし生活懇談会	1	37	18	4	4			13	67
呉みどり断酒会第47回断酒なし生活懇談会	1	26	10					19	37
平成29年度新年合同初例会	1	25	15	16	6	66	55		
全断連東京セミナー	1	2	2						
第40回愛媛ワンナイトセミナー	1	9	4						
呉みどり断酒会創立50周年記念例会	1	47	20						
県連理事會	3	19							
呉みどり断酒会役員会	3	32	5						
合計		1,094	489	82	121	897	329		73,019

- 理事(編集) 片山 久人
- 理事(監事) 福永 里美
- 理事 山内 鉄平
- 理事 高井 行雄
- 理事 住村 博士
- 理事 胤森 孝穂
- 理事 原本 正文

討 報

当会の常任相談役田中正直氏(行年八十二歳)が去る三月六日、永眠されました。謹んで皆様にお知らせをし、ご冥福を祈りたいと思います。

合掌